



渭江話二
乃之仿撰

5
1289
2





花多六郎 越後新撰連中

其一

目下第一二掃菖の栴

葉園

延ぬり柳のこく高解 巴洲

けりきりしつらふ柳竹て 山崎

ちりりしつらふ祖父の会回 田庵

燈籠の月れりしつらふかききり 雲後

燈下の踊はあつらふ 之由

其二

雪や舟れ子も ありより

竹風

雪とるる雪に染あけの雪 雲庭

はなしくぬい 伝達の 口もて 千株

ささくれはるさほとや 所を先 超今

清くそとそるわの月も 何 配下 園一

ひれし 新やそるさ子 居 宜由

其三

草のむやみ衣の杖の 摘拵一

丈先

裾濃し濃く 折ふ 膝く 鷹好

ささく 楊木の 葉供 配 せて 始流

雨 ちり ぬれ 声ひ けり 右兮

石 けつ ちり 暮るわの 月の 赤次 梨洞

白 ねし 松れ 林も けり 山市

品三

其四

枕柱

むね世と目の下と雲雀うら

山吹の如くはなれ 姫 垣 雲校

ま録し男はとまふて 巴例

るも嘶ききり 雲の 鏡 千株

姨捨の名はこゝれも 榎も 榎てこ世 雲原

月もつらにむしよ 田の ぬ 韋流

其五

之由

中も世のまゝに 春れさくさ

鴨も甲の 春の 新青れ 池 園一

舟車もせの 舟中よ 目とあふて 右分

はくもさかちぬ 身こく 船流

はくもさかちぬ 身こく 田庵

録しはくもさかちぬ 身こく 梨洞

賢所

中裁りて終の夕

山と雲借ふ松れあを 起今

内〜鶴知もさしおのまはて 草流

ふるも掃ふ草 夢の 意好

伏る〜もる〜はな月雲 算由

石能〜あわく 瓶ろ〜ん 此松

管 越後村上連中

文州

管の中垣ろ〜ん 義 隣

松れり初〜 庭よ 強もの 知素

白〜の〜とよる〜ま〜 彦ま〜して 遊吟

さ〜あ〜わ〜 歌心 猿腹 音凡

湯あ〜り〜様〜月おと 換たり 梅亭

掃除の後にちりぬ 萩 為橋

茶花 越後黒き連中

志凡

茶のむやまけなるむも標川

細れおむのりと笑ふあし 雲南

おん父入の上歯を妬ふらうて 似千

ゆるふくもくくふ 雲南 一風

草の名も隣り月の垣 一草 一葉

ゆるすの中れらうもくうてふ 一東

雲雀 越後五泉連中

舎久

あつたふらふらふのわらふも花は

あつたふらふらふのわらふも花は 何也

おぼろへんるらりれ 離れ 似て 豊林

あつたふらふらふのわらふも花は 似松

あつたふらふらふのわらふも花は 志

あつたふらふらふのわらふも花は 土鈴

雉 越後枳尾連中

嗽石

為虹の河ねや新の町

堀入をしろ田よきんけと 久女

小並と狐も鴉もあまると 五流

はくくはくはくあめあらし 既青

比る横川ふいそはのまは月 目境

こぼねの若く虫の起好 馬橋

燕 越後加茂連中

鷗笑

おんむじりぬ庭やゆきしほを

柳も命もあま 為 和 菅澤

特有の餅あまて 角さうり 万里

實語教へ 祖父の法流 如氷

まをふる 從後には月も家の内 千鶴

ゆりねあまの海じもいぬ物 染白

柳 越後巻連中

千丈

晩侍のむと知りて柳うま

春へふとて 移れる時 瑞翅

風中揚るれ相子に氣母もかて 二柱

海黄の裾もく川とぬ妻 子列

るほよく同屋のしよらぬ月 許考

ふしつらぬぬのさやう 卜之

楳 越後粟生津連中

一方

一 ちんちん 暮れ物さかやんさく

此と弾はれ七ありて響き 振 二盾

物さか 一 糸の高人 是よりて 一字

餅々 髪むし 何れも 此後 為行

おふのちのむくく 一月も 昨 梅思

谷七 帰も 度ふ 校川 起笑

留

楳 越後と板連中

去留

清くくくくくくくくくくくく

清くくくくくくくくくくくく 自笑

清くくくくくくくくくくくく 卷小

清くくくくくくくくくくくく 南之

清くくくくくくくくくくくく 兼芳

清くくくくくくくくくくくく 室羽

雑 越後の不連中

白雑

書意の終や板葉のふんふん

書意の終や板葉のふんふん 乃之

書意の終や板葉のふんふん 南南

書意の終や板葉のふんふん 兼長

書意の終や板葉のふんふん 白也

書意の終や板葉のふんふん 兼周

橋 越後上雲崎連中

小真

白ぬい撥田とほもはう〜
 ちもももも〜喜れ日さう
 離のら〜房も抄子有たあ〜
 眠くは屋のぬよ〜
 ちの書れぬ元〜
 ちらの木れぬ〜
 星出

雑 越後の所連中

仙潮

りのちや日〜
 ちのちのち〜
 袖は〜
 伏〜
 おま〜
 口〜

支水
 白世
 砕石
 星風
 菅室

雲雀 越後お中崎連中

川辺のふやふや〜 鳥さ〜 真山

ふよふよふよ〜 山あふ吹 野紅

奇麗好のま〜 暖味〜 位勢し 全

ふやふや〜 山あふ吹 山

夕月もあ〜 暖味〜 位勢し 全

菊よあやから 諸れ号渡 紅

菘花 越後お中崎連中

白石

菘花のよ〜 諸れ号渡 位勢し 全

その法 ね〜 山あふ吹 紅枝

れ中揚よおれ箱王と引とめて 洗柳

ひ〜 山あふ吹 許夕

夕月もあ〜 村の川あふ吹 其陸

踊〜 山あふ吹 倭泉

千雲夕佳 越後出守所連中

倭泉

驚心こころや 千々千々鳴り

里隙の隙心いよ 居眠り 洗柳

草餅のうとねふよ 思ふれり 許夕

始末こころ 張筆の狂 田石

中々こころ 月れり あり ぬ校

伯母心 高深 ぬれぬ ぬ入 甚隆

橘 越後の所連中

其隆

さきねにぬる 葉 翹や ぬら

谷とよこ けり ぬれ 晴 田石

ゆきぬれぬ 戸に 寺も あり ぬ校

若子 ぬれぬ ぬれ ぬれ ぬれ 洗柳

二れこね ぬれぬ ぬれ ぬれ ぬれ 倭泉

しつと 柳れ 早まぬ ぬれ 許夕

雉

越後出雲崎連中

許夕

短鳴やふ田と音れ消 殆く

ふ草の種も 多れふりい 倭泉

縄土のむと 田と音れ消 田石

もい 柳やわい 柳やわい 切 若陸

柳灯い 柳灯い 後の月 柳 洗柳

後柳ツケれ 杖の夜 芝居 紅枝

菜花 越後柏崎

菜花い や花子うらるるのふあうま 柳言

い 柳い 柳い 陽空

袴揚ぬ 袴と 袴い 柳い

柳い 柳い 柳い 柳い

柳い 柳い 柳い 柳い

柳い 柳い 柳い 柳い

雲雀 越後柏崎連中

北有

葉の竹れをまるといふ
 孫濃に付くとまのあま
 おもひも極く目にと取れ
 かさ位品のやまふん
 ち張の義引けよまか
 まよれ錦とほむあき
 一朝

榎 越後柏崎連中

榎長

はくお酒天き子れ 飲仲る
 ねい美とまよ 早
 まねい保あ脈を 取あ
 帆かけしと 舟の色カ 葉之
 名月もろくまを 誇り
 遠にるまれ 飲とあのみ 皓嘉

雲雀 越後橋崎連中

鶴仙

陽をぬるまよしやとや 揚子雀

ちりちり雀のよよ 柳のささり 杏

女房のちりちりといれるまよし 松先

まよしちりちり 柳のささり 桃五

ちりちり破て月とおむるまよし 初め

い舞と指よまよしちりちり 眠え

梅 越後百本連中

曙来

梅の花とまよしちりちり 梅のい

ちりちりちりちりにまよし 曙 芳川

ちりちりちりのいちりちりちりちり 白司

ちりちりちりちりちりちりちり 東可

何石へちりちり掃やりてまよし月 帆陰

ちりちりちりちりちりちりちり 竹守

燕

越後岩手連中

ト友

ほろろとほろろとほろろとほろろと

柳の葉のそとに 川

流

園一

ちほりてまよふとととととと

ま

いろはれおとととととと

椿朴

格子の紙のちりちりちりちり

訊之

虫のちりちりちりちりちり

眠例

櫻

越後今町連中

貞虎

さくらさくらさくらさくら

さくらさくらさくらさくら

表

全

ぬいぬいぬいぬいぬいぬい

梨木

月まげまげまげまげまげ

全

まのまのまのまのまのまの

丸的

花にまげまげまげまげまげ

全

雲雀

越後今町達中

如氷

月の光を照らす花の香りのこころに
 糸のつらさを金糸の 糸元 龍火
 羽二重のこころをよむの角をわけて 山丸
 調市のまをさるる久き 雨柳
 餅のたまりと 言々々々 養仙
 さ〜ゆりりの 十五夜 雄判

橘

越後今町達中

眠虎

横をたぬき〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
 越後、〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
 海をこすぬき田と〜ま〜ま〜ま
 〜ま〜ま〜まの 橋〜ま〜ま〜ま
 さ〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま〜ま
 の 橋のま〜ま〜ま〜ま〜まの 度
 蟠龍
 花毒
 柳思
 櫻林
 如氷

梅 越後東奥川

梅の香のほかにてちや細小路

九罏

膚てあぬさぬ髪者の襟え

羽紅

袖貝のゆりのこやしつれ

泥南

夕飯待しきもよも

石家

月とせうくさくさの引のれを

ト山

多され振うやうくと

和全

雲雀 越後の不連中

るのりも松をともかふひ

依藍

牛も原こころは

が方

城祿の系図と細よ

治圭

川もぬきれな

希西

う月れうまひふとて

呂仲

おさくの枝よ

邑芝

葦花 越後赤見川

菊二

葦のむしや寄進何かるちを敷
とれ仲るゝ採の羽厚い 冠五
吸箭の一里と益まゝくれて 春東
てうとゆゑ依のまらぬ 里祝
なをあふとふ月も竹帯 雨笠
とんとあふとふくゆる 虫 坡什

橘 越後林原

赤穂老

一字

橘のむしや寄進何かるちを敷
とれ仲るゝ採の羽厚い 冠五
吸箭の一里と益まゝくれて 春東
てうとゆゑ依のまらぬ 里祝
なをあふとふ月も竹帯 雨笠
とんとあふとふくゆる 虫 坡什

柳

越後沼海連中

一松

古塚のくさくさうらうらうと柳

緋衣は神よのあはれ陽を

浜風

舟移れ舟も冷やうほさて

恥谷

あの竹杖のききれうけり

雪碎

柴垣と不破しほけぬ月れ荒

園朝

石の岸にたむく短歌集

六川

雲雀

越後中沼海連中

一身

まよひのつらねて手く雀

道の細作の物よまき

た曲

何れもあゝ永の於新らんで

杜角

名馬と鹿をうらふゆき

石虎

あゝ心とあゝ寝るれ月れ

晋竹

花のちかすよれ雪のるる

湘雨

楳 越後も不連中

南嘉

手くれりとらねえしゆー河楳

ふみねをぬくまわれ帯目 芝平

返して来る話へ被のちきよ付て 吳格

年よとわー下支櫃の音 起石

ふらふらあはれ月も十にお 九虎

こよの穂あつてもとらる 栢雨

雉 越後月不連中

素隆

叩きつゝる箱の音や 終の柳

躑躅此紅よ叩きつゝる音 香雪

石化坊の娘も泣くまきまつて 南嘉

止の叱もあつた也 新嘉

物よとまきもふさふさ月が顔 巴水

柳の月とまのよお男座 東紗

柳 越後之桑連中

高平

推てふれぬよきさき 柳うき

移と小楮よゆらゆら 馬天

花はさぬるしお寄よけふて 書州

あけさきさきのさきさき 平

柳はよ極て月あのみよめと 天

踊れよさの山解らうさよ 44

花さく 越後新設田

其一

梅屋堂連中

表白

柳とくを詩しふし梅のむ

けしきよとふきれ 春 梅仙

くささきしこさかた種ありし

さきさきさきさき 春 直仙

福来し月さきさき 春 香舟

花の輪も今さき 春 東林

其六

氣柳

女まゝしりあ川流るるも蕙くふ
 こりも流るるを磨きの川 梓仙
 長老の御衣よまきもころね下 松暁
 携ふゆきぬと雪あやみぬ 洗涼
 ふかぬるもこりぬあさる川 二及
 きくちろくさぬまきぬ 執事

其五

司川亭連中

脩竹

葉のむや里いも深しまのま
 きりけの川も 流るけ 汗虹
 菊起のきりへもも葉とけりて 釣月
 備中の中いさの目くくり 美流
 復言し桂ねくこもけり 此柳
 ありはるよて片送し新たぐ 執事

其七

杓里

う張のころうらまふ山手崔嵬
 中はく燈をけりし心吹 洋缸
 原あふまきしちきり物をもて 沙之
 む代に種を祖父とこられ 野梅
 やうけりて鐘の響けし一物 起風
 他言のころと市に庵也 執子

其七

巴凌

諸君へののちとちり 福持
 鐘も遠寺に名をよるむ時 汗虹
 里とらぬ何よき供とけぬて 巻巻
 筋のうらなれ石揚ぐるる 里花
 と綴しきくちり月あの下をみ 遠芳
 うらうらうらうらあし町あし 執子

其二

竹市

ふま領のつゝ化粧ひつや終のあ

田ちれきしきまれら〜〜 汗紅

お午〜〜のうけ敷と信〜〜 敵月

〜〜とあ〜〜也 松雨

夕月〜〜のふ日備た 立書

〜〜の〜〜也 中一 執事

花をたぬし羽衣を連中

其一

風草

梅うきやきこの心解て時

〜〜〜〜し〜〜 千峯

お午れ高りにぬめう家えとて 白之

屏凡の陰〜〜思れ念仏 壺英

赤元れ〜〜月も〜〜れ 凡芝

舟のあき〜〜の詩仙れ 千阿

其二

さくらんぼやハミ次帝 為枝娘

芦錐

そ逢れ馬ノ纏の 七吸 宇坂

傍乳の娘ノ 抱ふお教ノ 安藤

今七むしーれ名よき名 山 燕雨

踊子の教ておほい月さぬ 壺朝

林のさかしの 庭七しとんて 梅二

其三

約よきにらぬ名を ちぬ梅江

兆而

友れ安井心 ぶさる白子 巴千

業よりと氣と 赤のりよおひし 一石

とらしんきし ぬき粉一林 終九

おろしと ぬてし ぬき粉一林 紫遊

らやうと ぬてし 芦の代物 杜考

其六

燕や信の町をのぞきし

交松

こらしあふのさるや

ま

桂次

松のうらみあふりよる合て

素紅

舟もちをらふ

泊れ七浦

巴水

床よりとれてさうりよる月

素舟

親仁よほるともをれまら

東明

其五

棠れむやうと子念のま時

十知

編るも語よをれて下京

杜由

鶯橋もまらし暮の座を色て

魯子

かよひの傍れかよひ宿を

可恕

手有座しよるも月よ起あふ

枝翠

お撲も七目と志れよぬ

文市

其六

李夕

松原のさかきさかきとて雨を産出
宵きしつらつらきよき日の宇井
麻糸の糸をい仕入よきゆらて里松
敷の二階しよん 所を也 夕夕
月七よやれいこころよ言言信 隣市
こころ松心折てるはく 只白

柳

出羽雪急連中

舟英

ちかきささわてけよ 柳よ
こころを日新しよふ白壁 雨夕
出羽の言よよと不志のされて 柳里
ほろおよのあけの 歌あ 文松
岩あけ月あけわいふくし松 松亭
もお田れ風のゆるま橋の 秀 重行

雑

出羽同席連中

童行

かゝるのまじりしりしりや終れ抄

ふとけしーくまを夕唯

也深さく候氣の沖とあそび

自慢とかくぬ 帝の寶物

まふれ片やうとくはるの月

あゝ思ふこの 答とあそぶ

舟葉

松亭

竹之

蓮離

蘭水

同席 水壘舎連中

かゝるのまじりしりしりや終れ抄

まの白田に水ぬ 藪かけ

者のあそびしりしりや終れ抄

ありしりしりしりしりしりしり

まじりしりしりしりしりしりしり

名ふれしりしりしりしりしりしり

片石

雲百

魯州

睡珍

長谷

石原

梅 玉の羽黒連中

品名

月七の梅もさかすか梅や梅
膳も梅も梅も梅も梅も
春のつれづれ梅も梅も梅も梅も
おくれも梅も梅も梅も梅も
あふも梅も梅も梅も梅も
隣の梅も梅も梅も梅も
雲中

柳 同齊連中

百溪

吹とる瓦ととる梅も柳も
雪も月も雪も梅も梅も梅も
おとるも梅も梅も梅も梅も
春も梅も梅も梅も梅も
雪も梅も梅も梅も梅も
雪も梅も梅も梅も梅も
雪も梅も梅も梅も梅も

様

玉羽酒田連中

南江

集れ戸の世に捨くぬるさく水

柔橋のふよはやと新起 和竹

七浦の釣と産くそんわうて 南季

如負極るらとやん挿除書 東川

女櫃のさしきりゆの 月里泉

甲らこととさきり 南林

雅

玉羽酒田連中

虎砌

元とよ流れかたや 群のゆ

あらしふさくさく 南江

むらむらむらむら 南季

くさくさくさくさく 南季

初月れなむとゆぐ 喜水

さしみ 和竹

梅 出羽酒田連中

斗南

梅の香も寂れし中
 懐くもあはれ
 魚の各よあはれの兼おと名れし
 月あを折れし紙
 伴のあはれし
 お櫻よ言とまわし
 己百

柳 出羽秋田連中

世凱

柳や柳の文意入
 石し九幸の
 おもれ積れし
 柳山
 歌女
 石凱
 青藍

梅

文可爾

ふ梅におろしうらよ唐の

物 木柳

露白

固常

初雪

可與

同席連中

柳枝

柳枝

世水

昨非

柳牛

柳

木耳

櫻

出羽松田連中

あつらひしつらふしとこころのけしき

也柳

春の睡ふかしぬハ十時位良

而子よふとめかしくさつてノ全

女中れあはれぬ入こころハ柳

又保れ枕ふりまて月よき全

まよとよきささきも枯れ良

梅

佐後相川連中

濁れ世れあつてあつて梅

楚璞

蛙の歌もきこふ序も銀

あつらひ月頃もくはる二首あつて

春の即座れぬもくはる一七

あつらひしつらふしとこころのけしき

あつらひるいもあつらふしとこころの

文等

徳只

一七

若哉

銀

学 佐佐木川連中

湖秋

学也世よお山れ 稷とあー

はるまの望も咲くわたり 巻 百和

唐人も日々ののまよふ 初よて 其竹

廊の香るるの端もなげあふ 舟井

名月とさちよよのやうかきと 松雨

唐突自をれすものさきさきの 支川

